

帰朝報告書 経済学科4年 木村 瑞杜

スペイン・サラマンカ大学への留学を決心したきっかけは、高校生の頃から南欧の文化に興味を持っていたことと、留学を通して自分の興味のある学問領域を日本とは違った角度で学びたいと思ったことでした。大学入学後は経済学部の授業を受けつつ、個人的にスペイン語塾に通うなどしてスペイン語のスキルアップを図っていました。

留学中（2016年9月～2017年6月）は、青学在学中にゼミで扱った企業統治や経営学に関する分野も学びたかったので、主に経済と経営の授業を履修していました。授業は全てスペイン語で行われるので、ある程度日本でスペイン語を学んでいてもはじめは全くついていけませんでしたが、しかしこのままでは何も理解できないで進んでしまうだけだと思い、授業の予習・復習、わからないことはその日のうちに質問するなどして解決する、といったことを徹底してきました。その結果、10月あたりからは先生の言っていること、授業内容などが理解できるようになり、より一層考えながら授業を受けることができました。

具体的な履修内容としては、経済では経済思想史と開発経済学、経営ではマネジメントとマーケティングの授業を履修していました。

経済思想史は青学でも履修していましたが、扱った範囲が広く、毎授業後に小テストが実施されるので、一つ一つの理論を覚えるだけでなく具体例を使って説明できるように勉強していました。開発経済学は、グループを作って、発展途上国を一つ選び、その国の経済状況についてのレポート&プレゼンをするという課題がありました。資料探しやグラフの作成といった専門的なことも全て自分で行う必要があったので、情報収集力やExcelを扱う力も付きました。またグループメンバーと何度も授業後に集まり、プレゼンやレポートについて議論を積極的にしていました。グループが全くまとまらなかったトラブルもありましたが、連絡を密にとり、何とか課題をやり遂げることができました。

経営学のマネジメントとマーケティングは、具体例を使った計算問題が多くなり、理論を理解するだけでなく、数字で表せるかどうか、といったことを学びました。ほかにも、即席のグループを作って、経営者はどういった人であるべきか、人を雇うとはどういうことなのかといったことを議論したり、実際にスペイン企業の経営者の方々を招いて、スペイン経済と企業経営の現状について深く理解することができました。

留学中はどの科目も非常に内容が濃く、課題や試験も大変なことばかりでしたが、それを通して自分で解決していく力、トラブルへの対処力が身につきました。日々の生活も、スペイン人とのルームシェアだったので文化面での違いなどで度々衝突することもありましたが、今思い返すと日本では絶対体験できない貴重な経験ができたこととても満足しています。

6月に帰国してからもすぐに就職活動があり、ゆっくりしている時間がほとんどありませんでしたが、留学中に培った自己管理能力と解決力で最後まで乗り越えることができました。将来、就職してもこの留学経験を活かし切り、世界に羽ばたいて活躍できる社会人になりたいと思います。